

---

# 希望の果てに

ユキマコハル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
希望の果てに

【コード】  
N9763P

【作者名】  
ユキマコハル

【あらすじ】  
滅びゆく星を後にした者たちがたどり着いた先に待っていたものは…

我々の星が滅亡の危機を迎えた時、我々には2つの選択肢があった。

愛する母星とともに滅び行く道を選ぶか、それとも新天地を求めて広大な宇宙へと旅立つか。

もちろん我々が後者を選んだことは言うまでもない。

天変地異などにより、すでに約9割ほどの仲間が死んでしまっていたが、残った我々は肩を寄せ合うようにして宇宙船に乗り込んだ。

さらば我が母星よ。

いざいかん！新世界へ！

我々が目指したのは銀河系の中のひとつの恒星である。いや、正確にはその恒星の周りにあるいくつかの惑星なのだ。その中のいくつかには我々が適応出来る可能性があった。一番可能性が高いのが第三惑星である。事前探査機からの送信データでは、気温、湿度、大気、どれをとっても我々が生存するのに最適な状態であることが読み取れた。

我々が母星を後にしてからまもなく二年が経とうとしている。計算では後少しで目指す惑星に到達する予定である。

幸いにも、この長旅で誰一人欠けることなくここまでやってこれた。後少し、後少しで希望の扉が開く。

「前方に青い星が見えました！」

操縦士の一人が言った。

その言葉に皆、歓喜の表情を浮かべ手に手を取り合って喜んで  
る。

やっと…やっとこれで長かった旅も終わるのだ。

やがて前方に豆粒ほどにしか見えていなかった青い星が、近づくとつれていかに巨大であるかがわかってきた。確かにデータでは、かなりの大きさであることは推測出来たが、これほどまでに巨大だったとは…。

我々は、その大きさに圧倒されて皆、言葉を失った。

「まもなく大気圏に突入します。」

突然、宇宙船の揺れが激しくなった。皆、立っていることさえも出来ないぐらいの激しい揺れだった。

どのくらい揺れが続いただろうか。

やがて静寂が訪れると、窓の外には広大な緑が広がっていた。

やった！ついに…ついにたどり着いたのだ。

パクッ！！

「コラッ！また変な物食べて！駄目でしょ！」 カラスのお母さんがやっと巣立ちをしたばかりの子ガラスに言った。

「はい。ごめんなさい」

こうして、我々の長い長い旅は終わった…

(後書き)

乱文乱調失礼致します。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9763p/>

---

希望の果てに

2011年1月8日20時10分発行